

WHO方式のがん性疼痛治療法

WHO三段階除痛ラダー

中等度から
高度の痛み

モルヒネ、
オキシコドン、
フェンタニル、
±非オピオイド鎮痛薬*1
±鎮痛補助薬

軽度から
中等度の痛み

リン酸コデイン、
トラマドール、
±非オピオイド鎮痛薬*1
±鎮痛補助薬

痛みの残存または増強

軽度の痛み

非オピオイド鎮痛薬*1
±鎮痛補助薬

痛みの残存または増強

*1：非ステロイド性鎮痛薬
アセトアミノフェン
注意：±は必要に応じて併用

第1段階

第2段階

第3段階

WHO方式がん疼痛治療の5原則

□By mouth 経口投与を基本とする

できるかぎり簡便な方法を選択
経口困難であれば早期に切り替える

□By the clock 時刻を決めて規則正しく

がん疼痛は持続的な痛みであり、薬剤の作用時間が途切れないように、一定間隔で規則正しく投与し血中濃度を安定させる

□By the ladder 除痛ラダーにそって

薬剤は痛みの強さに応じて選択し、生命予後の長短を考慮する必要はない

□By the individual 投与量は個々の患者に合わせて

鎮痛薬の必要量は患者ごとに大きく異なるため、
個々の患者の適量を求めるには効果判定を繰り返しつつ、調整が必要である

□Attention to detail そのうえで細かい配慮を

以上の4点を守ったうえで、分かりやすい患者指導、副作用予防策の必要性と実施法、
痛みの評価や患者の心の状態への配慮などを行う